

お話のせかいに入って音読げきをしよう

「お手紙」 アーノルド・ローベル作

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくんの気持ちを考えよう。

「二の場面」 本文揭示

がまくんは、げんかんの前に すわっていました。

※本文書き込みの例(児童の取り上げた文章の横に、発言内容を書きこんでいきます。)

かえるくんは、お手紙もらったことあるのかな。

○「だって、ぼく、お手紙もらったこと ないんだもの。」

ほんとうに一度もないのかな。

○「いちどもかい。」

ぼくのこと、みんななんともおもってないのかな。

○「だれも、ぼくに、お手紙なんかくれたことがないんだ。…そのためなのさ。」

「ぼく、もう 家へ帰らなくちゃ、がまくん。しなくちゃ いけないことが、あるんだ。」

がまくん
かえるくん } かなしい気分

【分かったこと・できたこと】

- ・ がまくんもかえるくんと同じように、かなしい気もち になっていくことが分かった。
- ・ 気もちは、会話文にたくさんあることが分かった。

【3 / 11時間目 指導略案】 使用するワークシート(二の場めん) 活動のねらい

登場人物の会話や行動から場面の様子を想像し、音読に生かすことができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

- 学級に揭示している学習計画で、本時の学習内容を確認させる。

2 一の場面を読み、がまくんとかえるくんの会話文を確認する。(個人で↓全体で)

- 会話文の上に赤(がまくん)と緑(かえるくん)で○印を付けながら確認させる。
- ※ まず一人で考えさせます。次に全体で本文に沿って順序よく誰の会話文かを答えさせます。教師は、黒板に掲示している本文に色分けをして○印を付けていきます。

評価 誰の言った会話文かを理解し、場面の様子を想像しながら読んでいる。(ウー1)

3 登場人物の気持ち分かる文章をワークシートに抜き書き、その時の気持ちを考えさせる。

- 登場人物の気持ちを会話や行動から考えさせる。

【個人】

- ※ 人物の言葉で思ったことや感じたことを書かせます。がまくん、かえるくんのどちら側から考えてもよいということを伝えます。
- ※ 気持ちをうまく探せない児童には、会話文を指定して書き抜きをさせ、そこから気持ちを考えさせたり、表情を絵で描かせたりします。

【少人数】

- ※ 自分の考えを全児童が表現する、伝える場の保障として、隣同士やグループで交流をさせます。そこで、気付かなかった友達への考えに触れさせるといふねらいもあります。

【全体】

- ※ 考えやすいように、赤と緑で○印を付けた会話文を基に、がまくんの様子とかえるくんの様子を分けて考えていきます。その上で、二人の様子をまとめていきます。
- ・ がまくん・・・お手紙をもらったことがなくて、悲しんでいる。
- ・ かえるくん・・・がまくんの話を聞き、なんとかがまくんを元気づけようとしている。

4 読み取ったことを基に、一の場面を音読する。

- 役割を決め、それぞれの人物になりきって音読をさせる。
- ※ 人物の気持ちや表情を顔マーク(△)を加えながら練習させます。

評価 がまくんのさびしい気持ちを読み取っている。

(イー1)

5 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

- がまくんとかえるくんの悲しい気持ちを読み取り、気持ちは会話文にたくさんあるということをワークシートの振り返り欄で確認させる。
- 次時は、二の場面を読んでいくことを確認する。